



占部会長(以下占部に略)

この春、新たに小嶋学長が就任されて、大学運営がおよび改革に抱負をお持ちだと思えます。まず、お聞かせいただけませんか。

小嶋学長(以下学長に略) 名古屋学院大学を東海地区でトップ5に入る大学にしていきたいと考えています。もちろん、すぐには難しいので中長期的な展望としてです。今、本格的な少子



化時代を迎え、これに対応すべく各大学がさまざまな取り組みの中で特色づくりに邁進しています。本学も新たな学部開設や名古屋キャンパス開設など、時代の変化に合わせた取り組みを始めています。東海地区でトップ5に入ることを目指すならば、まず本学のブランド力を向上させる、例えば在学生が出身高校に行き本学への入学を薦めてもらえる、同窓生には本学卒業を誇れるように、または学生が就職した企業からは良い大学だと言ってもらえるように、社会的な評価が高くなる必要があります。

占部 全く同感です。そのために学生の学力アップは当然ながら、名古屋学院大学が良い大学であることを広報していく体制を強化する必要性もあると思います。大学としての歴史があり、学生教育に対する熱意や施設では他大学に負けていませんから。後はそれをいかに上手く発信していくかですね。



笠井副会長(以下笠井に略)

学長が言われたブランド力向上は、クラブ活動の面から考えるのも良いのではと思います。私は在校時代に野球部に所属

座談会 名古屋学院大学の羅針盤

2005年4月、名古屋学院大学の新学長に小嶋教授が就任され半年を経過しました。名古屋学院大学は2006年4月に瀬戸キャンパスへ「人間健康学部人間健康学科・リハビリテーション学科」開設、2007年4月には41年振りの里帰りとなる名古屋キャンパス開設と、大きな変革期を迎えます。小嶋新学長と同窓会役員が出席し、名古屋学院大学の今後の方向性について座談会を行いました。



左から 須崎副会長、笠井副会長、小嶋学長、占部会長、下村副会長、安藤事務局長

出席者

名古屋学院大学
学長 小嶋 博

同窓会

会長 占部 憲一
副会長 下村 直己
副会長 笠井 修
副会長 須崎 英晴
事務局長 安藤 之人

※敬称略

してましたから、スポーツで例えると、優秀な選手が集まる環境を整えることも大切だと思います。極論ですが学費免除なども…。スポーツを道具にして名声を高めるようで異論はあるかもしれませんが、クラブの活躍がひいては大学の広報に繋がると言えるのではないのでしょうか。

学長 方法論の一つとして理解できます。本学は開学以来、学生の平等性に重きを置いて来ましたから、ご意見の実現は時期尚早かもしれませんが。しかし、これから大学の生き残りをかけて熾烈な競争時代に入ります。あらゆる選択技を持つことはありだと思います。



須崎副会長(以下須崎に略)

大学の社会的な評価に對する話ですが、私は瀬戸市に在住して思うことがあります。開学40周年を越えた今、地元瀬戸市での名古屋学院大学に対する評価が今一つ上がっていない。市内の中学校・高校に對するアプローチが弱かったのが要因ではないでしょうか。